

## 2 野 菜

項 目	作 業 内 容
<p>(1)イチゴの管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)            イチゴの管理            暖房費の低減対策            タマネギの定植            ソラマメの定植</p> <p>ア 電 照            イチゴは自然条件では 11 月頃から休眠に入り株がわい化する。このため、葉柄が短く葉が小さくなって光合成量が低下する。厳寒期のわい化を抑制し、草勢維持を図る上で電照の効果が高い。これまでの生育や品種等により電照開始期や点灯時間は異なるが、一般には、気温の低下が大きくなる 11 月中旬頃より開始し、日長延長では 3 ~ 4 時間、間欠では 10 ~ 15 分 / 時間程度を目安に実施する。過度の電照は過繁茂の原因となるため、新葉の伸長状況や葉色を確認して適宜時間を調節する。</p> <p>なお、高設栽培では、背の低いハウスの場合、株と電球の間が近くなり、生育ムラを生じやすいため、できるだけ光源から 150cm 以上の距離がとれるよう配慮する。</p> <p>イ 炭酸ガス施用            空気中には約 350ppm の炭酸ガスが含まれているが、この濃度を高めることで光合成が促進され、増収効果が見られる。特に、高設栽培では土中からの炭酸ガス供給がほとんどないため、炭酸ガスの施用効果が高い。施用時期は、果実肥大期の 11 月中旬頃より始め、日の出から午前中を中心におおむね 1000ppm を目標に行う。ハウスの温度が上昇し、換気が始まると炭酸ガスの施用効果がなくなるため、施用時はハウスの換気温度を 28 程度とやや高めに設定し、施用時間が長くなるようにする。</p> <p>ウ 温度管理            果実肥大期以降、土耕栽培では昼間 25 、夜間 5 ~ 7 程度を目標に管理する。高設栽培では、夜間、根圏の温度 ( 培地温度 ) が気温と同程度まで低下するため、夜間の温度を 8</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 暖房費の低減対策</p> <p>(3) タマネギの定植</p>	<p>程度に管理する。また、システムによっては、電熱線や温湯管により培地温度を 15 前後に加温しているものもあるが、簡易な方法として架台の脚部をビニルで覆うなどの方法も有効である。</p> <p>エ 摘果 商品性の低い小玉果を摘除し、着果負担を軽減するため適宜摘果を行う。品種によっては、1 番果は大きい収穫が進むとすぐに小玉になるものや、裾果でもある程度肥大するものがある。また、裾果が肥大する品種でも着果させすぎると厳寒期の草勢低下の原因となるため、摘果の程度を品種や草勢、着果数等により調整することが重要である。</p> <p>トマト、キュウリ、ナスなど、おおむね 10 以上の夜温を必要とする果菜類の越冬栽培では一般に加温が行われるが、近年、重油の高騰に伴う暖房コストの増大により農業経営の圧迫が懸念される。このため、ハウス破損部の補修等による気密性の向上、夕方早めのサイド閉め、暖房機の点検および清掃により暖房の効率化に努める。</p> <p>なお、比較的低い温度で栽培できる品目は、ビニールの二層被覆等により保温性の向上を図る。</p> <p>写真 1 ハウスの多層被覆と暖房機の清掃 (カスの掻き出し)</p> <p>写真 2 定植直後のタマネギ</p> <p>タマネギは酸性土壌に弱く、好適 pH は 6.4~6.8 である。排水の良い圃場を選び、完熟堆肥とともに石灰資材を施用して酸度を矯正しておく。</p> <p>圃場準備は、気温が高く、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予報されていることから、早めに行う。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(4)ソラマメの定植</p>	<p>育苗日数 55～60 日で、100 本重 400 g 程度、太さ 4～5 mm の苗を用い、畝幅 120～130cm、株間 10～12cm の 4 条植えとする。定植は、早生品種は 11 月中～下旬、中・晩生品種は 11 月下旬を目安に行う。苗は、なるべく根を切らないように掘り取り、深さ 2.5～3 cm 程度で、根が表面に出ず、葉の分岐点より上に土をかけないように定植して十分灌水する。</p> <p>ソラマメの圃場準備についても、気温が高く、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予報されていることから、早めに行う。</p> <p>播種後 15～20 日で本葉約 3 枚の苗を、畝幅 100～120cm、株間 30～40cm の 1 条植とする。</p> <p>植え付け時には、根を乾かさないように注意し、植え付け後は十分灌水する。また、アブラムシ類およびモザイク病予防のため、シルバーストライプマルチ等の利用が効果的である。</p> <p>ソラマメは、定植から活着までは特に水が必要となるため、定植にあたっては適切な灌水ができるよう、用水の確保に努める。</p> <div data-bbox="911 645 1382 992" data-label="Image"> </div> <p>写真3 定植直後のソラマメ</p>